

第2期 国分寺市公民館運営審議会 平成30年度第17回定例会 要点記録

日 時 平成31年4月22日（月） 午後3時00分～午後5時00分

場 所 本多公民館 講座室

出席者

■委 員 佐藤(一)委員長・田中(英)副委員長・木下委員・高塚委員・萩原委員・戸澤委員・大内委員・松井委員・田中(雅)委員

■職 員 前田公民館課長兼本多公民館長・増本恋ヶ窪公民館長・久保光公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長・野中本多公民館事業係長・木場本多公民館事業係、山下本多公民館事業係

■傍聴者

1 連絡事項

- (1) 館長挨拶
- (2) 配布資料確認
- (3) 第16回定例会要点記録確認

2 報告事項

- (1) 国分寺市教育委員会平成31年第3回定例会について

事務局：資料に基づき報告

- (2) 平成31年度公民館事業予定について

事務局：各館長より資料に基づき合わせて報告

委 員：恋ヶ窪のジュニアサロン国際教室について詳細を

事務局：昨年度2月と3月に実施しましたが参加者が少なかった。今年度は6月以降に国際協会と「居場所づくり」なども視野に入れて実施していきたい。
潜在的ニーズはあると感じている。

委員長：ボランティアやサポート体制を含めて、試行錯誤がかなり必要なテーマ。
大人に教える日本語と違って、学校のアプローチも含めて必要かと思う。
期待したい。他に目立つのが子どもたちにスマートフォンを習うもの。

委 員：今回は子どもたちではなくて某携帯会社から講師を呼んで実施した。

委員長：必要性高いのか。

委員：高いと思う。各館で行っているパソコン教室が、今後どうするのか再考する時期と思う。

委員：パソコン教室が全国的に減っている。あっても参加者が少ない。

委員：もう団塊の世代の人は会社で使えるようになっているのでほとんど必要としない。さらにスマホの方に移行していく。パソコンの方が使いづらいという人もいる。スマホも危険が多いので、そのあたりの使い方も覚えていかなければならない。パソコンよりもそういうことが怖い。

委員長：人生 100 年時代、情報化社会にどうつきあっていくか、新しい関係。激変している中でどう適応していくのか。もとまちが大人の学びをかなり充実させているようだ。新しい利用者になっていくといいし、古典・近世の国分寺市らしい視点を入れた、実施結果が楽しみ。

(3) 各公民館利用者懇談会について

事務局：各館長より報告

副委員長：懇談会というものをよく聞くが、本当に利用されているのか。春先はある程度テーマがあって、来なくちゃいけないような内容があってくることもある。秋にやる懇談会はなかなか集まりにくいと聞く。テーマがないのではないか。テーマを示して、「こういうことでご意見を聞きたい」と言わないと、予約システム施行後ももとまちなどは特に部屋が取れないなどの問題がなかったから、おそらくグループには懇談会に来なくてもいいかなと思うのではないか、それでは懇談会もなんの意味もなくなるのではないかと。懇談会の意味をもっと利用者の人たちにアピールしないと集まらない。特に懇談会に来てもらっていろんな人から話を聞くということは大事。

事務局：もとまちは秋の利用者懇談会は予算作成の前に行います。来年度の事業でなにか提案があるか。備品関係で不足しているもの、更新してほしいものはないかなど。過去には提案から布草履の講座やフランス美術などの講座を立ちあげています。予約システムが落ち着けば、通常の利用者懇談会に戻ると考えています。

副委員長:提案が講座や運営などに反映できるものにはして、それをPRしないと、何のために利用者懇談会をしているのか伝わらない。

委員:光は必要なテーマを上げている。また、毎年ロッカーの場所を変えているが、利用者懇談会の日に入替を行っている。課題を解決するという認識を持たないといけない。例えば予約システムはおそらく本多と光ぐらいしか困っている感じはしていない。

事務局:恋ヶ窪では、参加者1桁ということを課題として受け止めている。過去には各代表者にハガキを出したりして、自分たちの問題であることを認識してもらっていたと聞いている。確かに今はメールアドレスとか登録していただいて、公民館からお知らせが送れますが。利用者さんが意識を持って公民館の一員として意識が持てるような、ただ単に館内に利用者懇談会ありますとか掲示しただけではない、プラスアルファな努力もしてほしいという意見ももらっている。

委員:多忙な方や新規の方の利用者獲得が予約システムの目的だとすると、その利用者に昼間1回しかやらない利用者懇談会に全員来てくださってというのが無理な話。利用者懇談会は公民館と利用者が作ってきた、昔からのものであり、予約システムなどの新しい課題に対しては対応できないのではないか。

委員:もとまちはよく空いてると話を聞くが。

委員:恋ヶ窪、もとまち、並木は比較的取りやすい。本多や光の利用者には他の館の予約をいくつも取っておいて、実際に本命が取れば他はキャンセルする。またこれは今の予約システムの欠陥だと思うけど、無断キャンセルをしたらペナルティを課すようになっていない。なので無断キャンセルが多いという話がよく出る。

委員:ホールとかは、1週間以内に手続きしないとイケない。

委員:ホールの場合は有料だから厳しい。手続きしないと自動キャンセルされる。

委員:使いたい人が使えないのは問題。

委員:他館を取るということはモラルの問題で、方法としてはやむ得ないと思う。問題は、キャンセルしないということ。

委員長：予約システムでキャンセルはできるのか。

委員：自分でキャンセルできる。抽選結果が出てから先着受付開始まで1週間程度期間があるので、その期間にキャンセルすればいい。

委員長：なぜ簡単にできるのにキャンセルしないのか。

委員：予約が取れた後使用申請書を事務所で書くと自分ではキャンセルできなくなる。それまでは自分でパソコンやスマートフォンでキャンセルできる。

委員長：ルールを理解していない利用者が多いということか。

委員：利用者の中には高齢でなかなか覚えられないという声も聴いている。何回教わっても覚えられず、結局あきらめてしまうようだ。

委員：こう言っては申し訳ないが、予約システムを使うのがルールなのだから仕方がない。ただルールを守っていないのが問題。

事務局：光公民館では無断キャンセルを記録しています。月2・3件です。その場合は連絡して確認しています。

事務局：本多公民館では使用申請書が出ていないグループは、システムにデータは残していますが空室扱いとしています。本来はデータ消去の処理をしたいが、手作業で消さなければならないので本多の規模だと処理が滞ってしまう。

副委員長：もとまちの利用者は、他館の利用者がもとまちを取った結果、自分たちの活動ができなかった場合、おとなしいのかあきらめてしまう場合が多い。地域センターとか他に行ってしまう。それによってもとまちのグループが少なくなってしまうのが心配。

委員長：そろそろ時間です、こういう問題はそれこそ利用者懇談会で話し合った方がいい。予約システムの共有できていない課題や施設利用の方法などの問題が出てくる。重要なことは利用者が当事者意識を持つこと。利用者懇談会が活発になる何らかの理由を、運営サポート会議などで話し合ってもらいたい。

3 協議事項

(1) 諮問「国分寺のまちを学び共に創りだす公民館活動の今後について」

委員長：それでは答申の審議に入りたい。次回5月の会議で仕上げ、6月の会議

は最終の形の答申と2年間の振り返りの会としたい。今日は文章案がほぼ出ているので、説明を聞きながら修正箇所を確認して次回に最終的な文章案を出してもらって最後の議論をしたい。答申の資料編だとかコラムなどの問題などもあるので、章構成なども併せて次回出そろうようにしたい。

資料2を説明する。資料2説明。

あと最後の部分、ワーキンググループの説明をした後、田中委員にお願いしている大きな視野の部分について、今回の答申を位置づける意味で地区環境問題とか行財政改革、高齢化問題などを田中委員にまとめてもらおうと考えている。田中委員と調整したい。

次に各グループから変更点の説明をお願いする。

委員：第1グループ資料3の説明。

委員：雑談というところ、職員がいかに意見をくみ上げてくれるかという部分。

答申としての形に適しているのかどうか、ぜひ次回意見を聞きたい。

委員長：では第2グループに説明をお願いする。

委員：第2グループはしっかりと集まって見直して前回より変わっているところが多いので全部簡単に説明したい。資料4説明。

委員長：田中委員からの資料5について、私の方から説明する。資料5説明。

委員長：資料3について議論したい。

アンケート調査をやったようだが、結果はどこに反映されているのか。

委員：結果は「どのような講座に集まっているのか」というところと「市民が公民館に参加しているのか」という2つのところです。

委員長：それを資料として入れるよう準備できているか。

委員：今日は用意していない。

委員長：提案の順番をどうするかということはもう一度、相談してほしい。

委員長：資料4に移りたいと思います。異世代交流についてもだいたい整理されてきたようだが、2枚目と3枚目の表というのは違うのか。

委員：違う。

委員長：見た目は同じものが並んでいるように見える。

委員：公民館があらゆるところとつながっているというものと、もう1つは学校と公民館が手をつないでやりましょうよという絵です。趣旨が違う。初めのは公民館が主体で、次は学校と公民館です。

委員長：図表にはタイトルや説明をつけるようにしてもらいたい。

図表を出すときにタイトルをつけると、もっと明確になると思います。簡単に説明を入れ、誰が見てもその意味が分かるような形の説明が必要。趣旨が違う説明が必要。

次回には最終版が出てくる形でお願いしたい。まさに連休中に修正作業をするということで、かなり負担だと思うが、休みの前に調整して事務局に送ることとする。

委員長：全体の校正について、コラムと資料編が加わる。コラムについて説明をお願いします。

事務局：コラムについて、各館長には運営サポート委員と相談して、今期の運営サポート会議で取り組んできたこと、特にその館で特徴のあること、前期公運審の答申に基づいてやってきたことを取り上げて、1ページに書くように伝えてあります。各館選出委員は館長と確認していただきたい。

委員長：コラムは文章全体に対して、ばらされて書かれ読みながら本文を読むようなイメージだったが、今回は資料編でもないし本文にばらす内容とも違う。補足というのも変だ。

事務局：たとえば資料編の前に各館の取り組みとしてなど。全館から出てきてからタイトルや副題などをご協議いただきたい。

委員長：では本日の会議を終了する。